

中間評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等
<p><b>【国語】</b></p> <p>○3 学年では、思考力・判断力・表現力の観点別評価の達成率において、全ての項目で全国平均値を上回った。特に、「読むこと」に関しては全国平均を7ポイント上回っており、多くの生徒に読解力が身につけていると言える。</p> <p>▽知識・技能の分野のうち、古典分野および漢字の学習に課題が残る。また、「質問したりアドバイスし合ったりして思いや考えを伝え、先生や友達、地域の人と進んで交流しようとしている」という質問に対して肯定的な回答をしている割合が全国平均と比べて低かったため、学び合いや協働学習の機会を増やしていくべきである。</p>	<p>●思考力・判断力・表現力に関する事項については、文章中の語句の意味や関係に注意しながら文章を読み進める活動を行っている。また、文章の内容を自分の身近なことと関連付けながら読んでいくことも引き続き行っていく。</p> <p>▼継続して漢字の学習を行う習慣を身につけるために、授業内で新出漢字や間違えやすい漢字を確認したり練習したりする時間を設けて、正しく、丁寧に書くように指導を徹底する。ドリルパークも活用し、自分に合った学習方法を見つけさせる。</p> <p>また、授業内での学び合いや協働学習の時間を多く設けるようにする。</p>
<p><b>【数学】</b></p> <p>○【知識・技能の観点別評価の達成率より】3 学年では1 学期の達成率が目標を超えた。教え合いがしやすい環境づくりができています。宿題も極力出し、教え合う姿が増えた。2 学年では第二回定期考査の達成率が第一回のもので超えた。ICT の活用で書字の困難、焦点を絞ってききとったり記入することの困難に対応し、落ち着いて授業をうけられる環境を整備できている。</p> <p>▽生徒の発言をもとに授業を展開することは不十分である。</p>	<p>●引き続き教科担当内での打ち合わせと ICT 活用等の工夫により、授業規律・環境の整備を徹底する。</p> <p>▼知識・技能の達成率の向上をすすめるなかで、問題解決の過程を式で表す力はついてきているが、文章題から必要な情報を取り出し、解決の方針をたてる活動をふやしていく。生徒とのやり取りしながら、解決の筋道を立てるよう意識する。思考・判断・表現の達成度の推移にも着目して期末の評価を行う。</p>
<p><b>【理科】</b></p> <p>○3 学年では、区学力調査の結果より、全国平均と比べても正答率が3ポイント高く、学習内容が定着していることが見られる。アンケートからも意欲的に取り組む生徒が多く、落ち着いて授業を受けることができている。</p> <p>▽学力の2極化が見られ、苦手な生徒へのフォローが必要である。</p>	<p>●現在の取り組みが効果的であると考えられるため、継続して学習の取り組みを行っていく。</p> <p>▼長期休業中を利用して、ICT機器を使ってドリルパークなどの課題を出すことで、基礎・基本の徹底を行う。また、その成果を確認するための小テストを実施しながら、自身の苦手を意識させ、改善を促していく。</p>
<p><b>【社会】</b>○区学力調査の結果より、基礎や知識・技能の観点では、都の平均と比較して-1ポイント程度に縮まっている。また、「短答式」の問題では全国や区の平均を2ポイントほど上回っている。</p> <p>▽応用や思考・表現の観点では、都の平均と比較して-4ポイントと下回っている。また、「記述式」の問題の正答率が-5ポイントと大きく下回っている。</p>	<p>●引き続き基礎的な単語や語句の定着を促す。特に、前年度の復習については家庭学習にて進めていく。</p> <p>▼資料を読み取る技能を基に、読み取った情報を活用し、思考する活動を行う。また、思考過程とその結果を文章化し、記述する活動を増やしていく。また、応用的な学習が進められるように、個々の学習進度に即して日々の授業の中で応用問題に触れられる機会を増やしていく。</p>

**【英語】**

○全国学力・学習状況調査の結果より、「聞くこと」「読むこと」に関しては東京都の平均と比較し6ポイント程度上回っている。

▽「書くこと」のうちまとまりのある文章を書く力に課題があり、東京都の平均と比べ5ポイント程度低い。

●「聞くこと」「読むこと」の活動量を維持し、リスニングや読解問題において概要と要点を把握する力を伸ばしていく。

▼「書く力」を高めるために、単語テストやレポートの課題を定期的に設定する。ALTと協力して助言・指導を実施していく。書くことの活動を繰り返し実施し、書くことへの苦手意識を取り払っていく。

期末評価

○ 成果と▽ 課題

● ▼ 来年度への方策等

【国語】

○2 学年では、話すこと聞くことが区の平均より 1.6 ポイント上回っている。  
▽2 学年では、言語事項が区の平均よりも 2.8 ポイント低く、漢字や語彙力に課題があるように思われる。また、1 学年の読むことは区の平均よりも 3 ポイント低い。

●ほとんどの単元で、グループで話し合う学習を設けている。生徒同士で話し合うことにより、わかってもらえるように伝えることを意識させていく。  
▼2 学年では、語彙力を高めるため、漢字学習ノートの活用および言葉の意味調べの機会を増やしていく。1 学年では、文章をただ読むのではなく、内容を理解しているか確認しながら読めるように、要約の指導を充実させていく。

【数学】

○2 学年では 1 学年と比較して A、B 層が 3.3 ポイント増加した。また、区の平均より 3.3 ポイント高い。  
▽2 学年では点数分布の中間点が少なく、山が二つある分布になっている。D 層の引き上げの対策を要する。  
1 学年では区の平均より 1.9 ポイント低い。また、観点別区平均比は知識・技能が -2.4 ポイント、思考・判断・表現は +0.9 ポイントであった。

●教科担当内での打ち合わせと ICT 活用等の工夫により、授業規律・環境の整備を徹底する。毎授業での復習を次年度も副教材を用いて継続し、かつ D 層生徒を中心に個別に支援をしていくとよい。  
▼2 学年では D 層の引き上げの対策を要する。進級にあたり、前年度までの既習事項の確認を毎回の授業で組み込み、底上げを図る。  
1 学年では観点別区平均比は知識・技能が -2.4 ポイント、思考・判断・表現は +0.9 ポイントであったことから、授業規律の徹底と基礎基本への対策を要する。

【理科】

○教科総合の成績は、区平均よりも 1 学年では 2.7 ポイント、2 学年では 1.7 ポイント高く、学習の定着が見られた。また、2 学年では A 層の生徒が昨年度と比べ、9.5%増加した。  
▽1 学年では学力の 2 極化が見られる。また、2 学年では D 層の生徒が 4%増加した。

●基礎基本を徹底した学習に効果が見られ、一部の生徒はさらに応用まで取り組むことができている。今後も基礎基本の定着を第一に学習に取り組ませていく。  
▼1、2 年とも D 層のフォローを行い、学習が苦手な生徒への学習内容の定着を行う。

【社会】

○2 学年は昨年度と比較して、A、B 層の生徒がどちらも 5%ほど増加した。また、区の平均より 2.6 ポイント高い。1 学年は A、B 層の生徒が多く、現在の 2 学年と同等の割合になっている。  
▽2 学年では昨年度と比較して D 層の生徒が 2%増加し、学力の二極化が見られる。1 学年では思考・判断・表現の観点と歴史分野が、区の平均より 2.4 ポイント低い。また、1、2 学年とも、知識技能より応用問題における得点数が低い傾向にある。

●知識・技能の定着を図る学習に効果がみられたため、引き続き家庭学習も視野に入れてサポートを行う。また、地理分野でのデータの学習や白地図の活用により、学習の定着がみられるため、引き続き授業に取り入れていく。  
▼1、2 年とも D 層の生徒の引き上げを図り、既習事項の復習や、データの読み取りにおける技能の向上をサポートする。また、応用的な知識・技能、思考・判断・表現力の向上を図り、授業の中で応用的な学習を取り入れていく。

**【英語】**

○新宿区学力定着度調査の結果では、第2学年は区平均より2.9ポイント上回っていた。

▽新宿区学力定着度調査の結果では、第1学年は区平均より2.3ポイント下回っていた。また、2学年では学力母集団のうち下位であるC層及びD層が46.7%いる。各学年とも基礎基本の確実な定着を図るなど学力の底上げが必要である。

●2年生において英語力の定着が見られることから、現在の取組を継続して行っていく。

▼ドリルパークの更なる活用、Microsoft TeamsやSharePointに教材や課題を保存し、生徒がいつでも・どこでも・何度でも授業内容の復習ができるよう環境をつくり、家庭学習の充実を図っていく。また、学習内容の更なる定着を図るため定期的に小テストを実施していく。